

『紙芝居作成と読み聞かせ』の簡易概要

紙芝居は、附属幼稚園の「避難訓練の実施計画」や幼児の発達特性を踏まえ、不審者という避難訓練内容に応じた事後指導としての役目を果たすことを目指して作成されました。紙芝居の内容や読み聞かせの準備だけでなく、導入や最後の振り返りの場面も併せて準備・計画されています。読み聞かせは、今年度の避難訓練（不審者1回目）の2日後に各年中児さんのクラスで実践され、ゆったりと問い返しやペープサートも活用し読み聞かせがなされました。

作成された紙芝居

Aグループ：「みんななら どうする？」

カナちゃんが、知らないが優しそうなお兄さんに話しかけられ、「ついていけないバージョン」と「ついていってしまうバージョン」の2つの物語から設定され、幼児の反応を踏まえ読み進めていける工夫がなされているものです。紙芝居後には、内容と関連させ、ペープサートで防犯標語の復習も行いました。



Bグループ：「ほんとうに 知っているひと？」

幼児にも身近な園庭で遊んでいるという場面設定にし、ゆうきくんが外から知らないお兄さんに話しかけられ、ついていきそうになるが、友だちのあいちゃんに止められ、知らない人に気づき、先生に知らせるというものです。お兄さんが何者だったかを幼児に問いかけ、考えてもらう工夫もされています。



紙芝居の読み聞かせ場面の一部（双方とも幼児の学びや考えを創発させる多様な手段を用いています）

Aグループ：「みんななら どうする？」

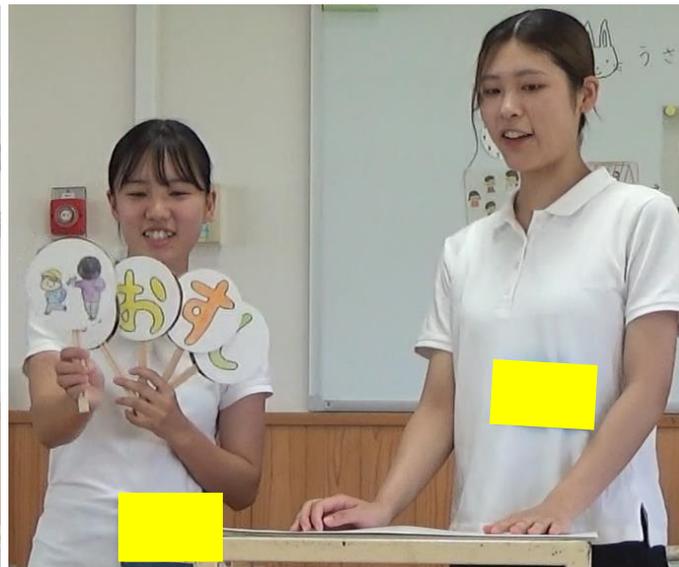
読み聞かせ直前の様子



児童に意見を投げかけている場面

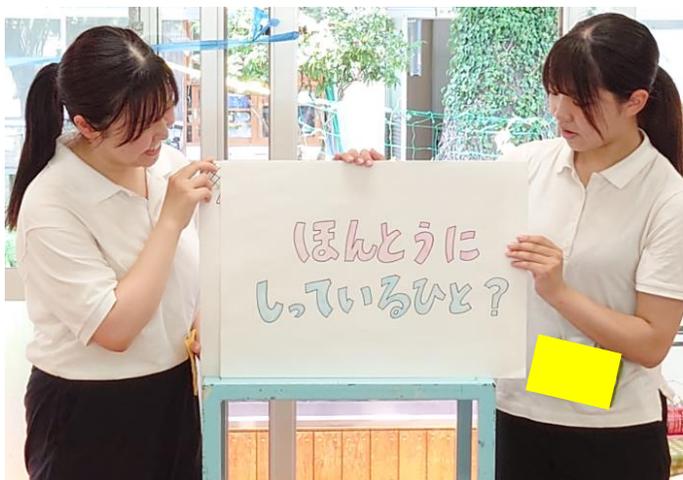


ペープサートを活用したまとめの振り返り場面

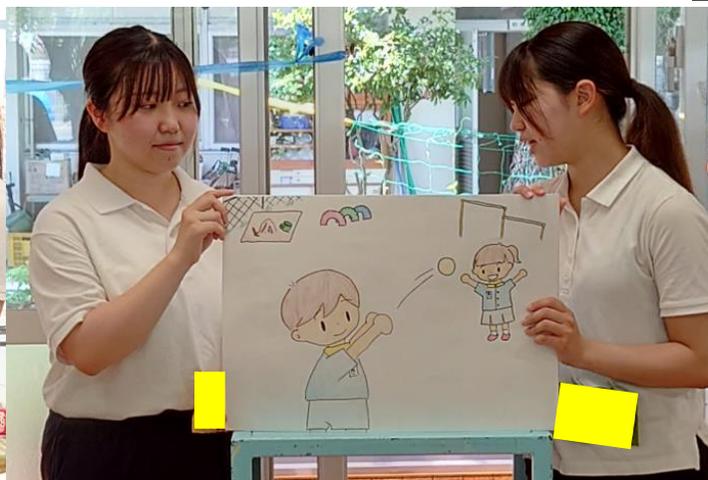


Bグループ：「ほんとうに しているひと？」

注意を引きつけ読み聞かせ直前の様子



読み聞かせ場面



読み聞かせ時に幼児に問いかけている場面

